

桜蔭俳話会 四月句会 (第三七四回)

平成三十一年四月二十八日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

3点①山笑ふ休耕田の発電板	ヤエ子	花見する行き交ふ人の道狭し	眞壽
3点 選挙公約読み直したり万愚節	友子	春の来て寒さは少し若返り	邦子
3点 情報の流れて闇へ花の冷え	明美	履き返し足袋の白さの能舞台	幸
2点①少年の黙は雄弁青嵐	才美	目借時通勤途中に草茂る	直子
2点①両足に我身を託しつくしんぼ	幸	うなだれし君は連れ子か春半ば	眞壽
2点 鶯や雨上がりたる切通し	友子	知る人の次きつぎ逝きて春淋し	邦子
2点 中空にとどまる羽音春深し	才美	蓄電池車の隅に消火器花の冷え	明美
2点 品書きの裏は真つ白花の茶屋	幸	万緑に目を奪われしプラタナス	直子
2点 雉の目や少し変へたるパスワード	守	コンビニの庇借りたる燕の子	守
2点 切り岸へ出てしまゐたる花遍路	才美	分封の蜜蜂銀座おののけり	友子
2点 田一枚残してありぬ花れんげ	才美	夕暮や轢かれて無惨白椿	ヤエ子
2点 大き口開けるが勝ちの燕の巢	友子	リホームの春着に置いてサングラス	幸
2点 巣箱より音のこぼれし山の雨	守	老の兄外食行けず桜かな	直子
2点 春深し天地暗転ここはどこ	守	崩れ落つ神の館や鳥雲に	守
1点①遙かなる星の墓域や燕来る	守	女の子のしゃぼん玉丘から海へ	友子
1点①春の鳶崩れてゆきし波頭	守	三極や心寄せ合う二人の眼	眞壽
1点①ランチには熱いほうとう春惜しむ	直子	ビタミンの足らぬくちびる雉子の目	守
1点 昭和の「和」残る嬉しさ梅香る	明美	ライトアップ消されてなほも花見客	明美
1点 若葉して玻璃開け放つ百畳敷	才美	青空や老いらくの恋よ八重桜	直子
1点 雉子鳴くや目線鋭し剣の舞	ヤエ子	笹鳴きの幼き声や屋敷神	幸
1点 晩年の不安やはらぐ初音かな	明美	主人留守庭には春の花咲かせ	邦子
1点 春昼や樹上かすめる軍用機	ヤエ子	つぎつぎに車種のリコール万愚節	明美
1点 桜蔭降る墓石に映る風の色	才美	初蝶や板戸の露地の三味の音	ヤエ子
1点 鳥ぐもり呼気湿りたる独り言	才美	忘らるる水かけ不動花の寺	友子
1点 真似難き父母の生き方朧月	友子	秘そやかに元気で長寿祈る春	眞壽
1点 携帯で潮見検索潮干狩	ヤエ子	広重の描きし立岩今は春	ヤエ子
1点 クルーズ船ずずいと着岸夏隣	才美	訪ふ人稀なる寺に呼子鳥	邦子
1点 旅寝して身は二日酔ひ匂鳥	守	からすの子はや晩年の選択肢	守
1点 霞みたる相模の海や一夜城	友子	ひとり通う決意ようやく入園時	友子
1点 諸鳥の絶唱めくや大桜	才美	陵の落花深しや人疎ら	ヤエ子
1点 轉の空押し上げて草木染	守	満開の花に浮かれる屋台店	眞壽
1点 のどけしや新元号のはや馴染む	友子	新緑や今朝の気分を選ぶ帽子	才美
1点 コンビニも厠も薺菜花道	ヤエ子		

※

セーターを脱ぐ日着る日や春不順 邦子
鯉のぼり泳ぐ花鉢空青く ヤエ子

(欠席投句 古野明美、京林眞壽、平野邦子)

「事務局からお知らせ」

○五月旬会

五月十九日(日)、港の見える丘公園で、吟行します。詳細は、同封のお知らせをご覧ください。

○六月旬会

六月二十三日(日)午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行います。

○七月旬会

七月二十九日(日)午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行います。

○八月は旬会は休みです。